

■ 脱政治化・ポピュリズム・熟議民主主義 ■

吉田 徹

北海道大学 公共政策大学院

yoshidat@juris.hokudai.ac.jp

民主主義（政治）の困難（1）

- 「民主主義とは、単に人民のための人民による人民の批判の言葉に過ぎない」

(O.Wilde, *The Soul of Man under Socialism*, 1891)

- ▶ 政治不信の拡大

Pharr&Putnam (2000) 「嫌われる民主主義」

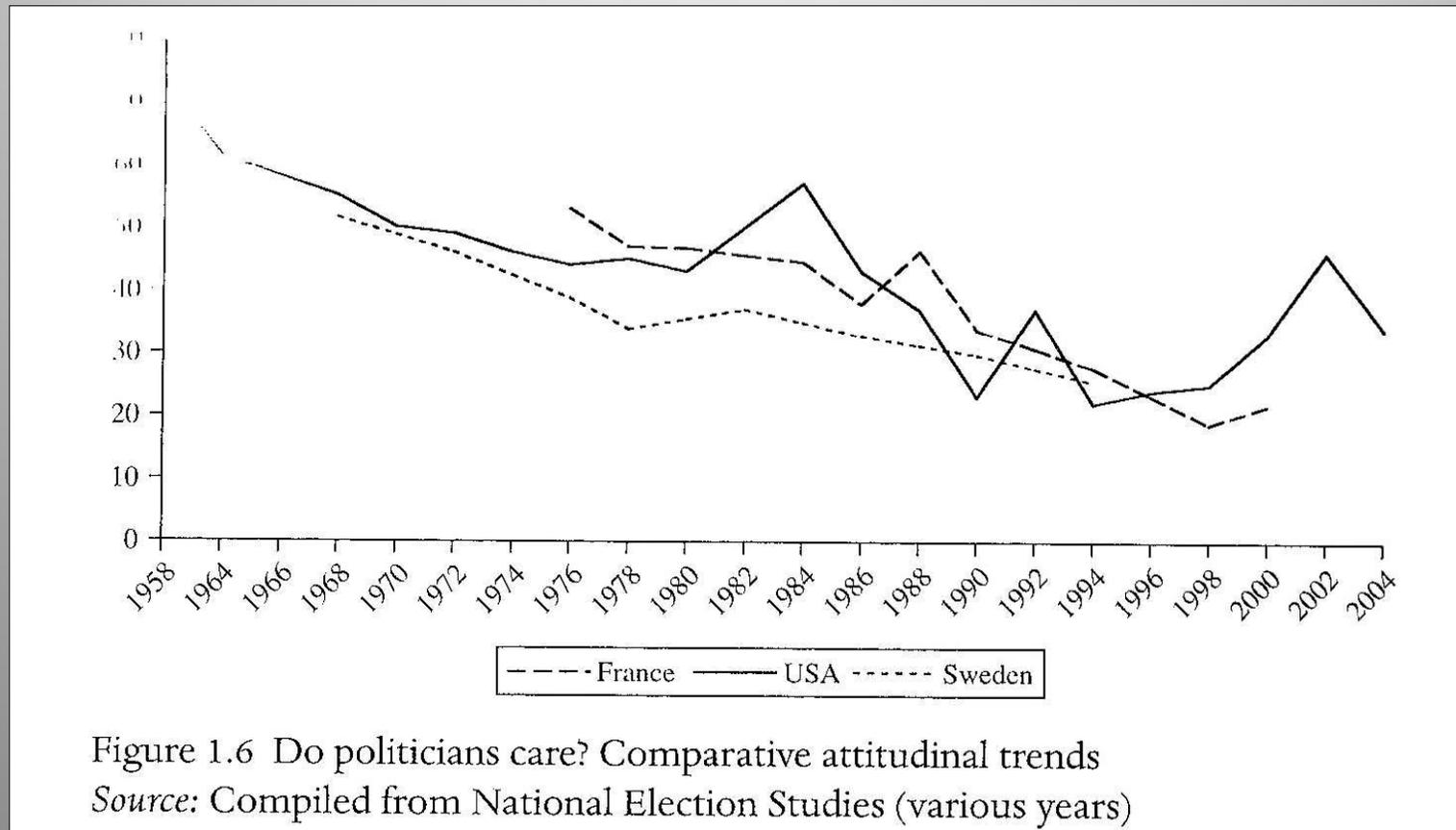
C.Crouch (2004) 「ポスト・デモクラシー」

C.Hay (2008) 「政治はなぜ嫌われるのか」

- 民主主義の＜拡散＞と同時に＜不満＞の拡大
 - ▶ 「外部」なき民主政の隘路

民主主義（政治）の困難（2）

- 「政治家は有権者のことを気にかけているか？」



(出典:Hay, 2004:30)

民主主義（政治）の困難（3）

●日本のデータ

- ▶「政府を信頼していない」：69.0%
- ▶「議会を信頼していない」：76.7%
- ▶「政党を信頼していない」：81.7%
- ▶「行政を信頼しないない」：67.2%

(World Values Survey,2005 not very much+not at allの総計)

- 規範的課題というよりは実践的課題...
政策は「信頼」によって担保されるため.

民主主義（政治）の困難（4）

- 民主主義（政治）の両極：
「決定」（システム）－「熟議」（理念）
 - ▶ 「決められない政治」に対する不満（統治の危機）
 - ▶ 「熟議」の主体に対する懐疑（代表制の危機）
- 背景には70年代からの「脱政治化」プロセス：
 - ▶ 「入力」の抑制と「出力」の最大化

脱政治化の過程（1）

- 「政治的過重負担（overload）」仮説
（Crozier, Huntington & Watanuki, 1975）
- 民主政の「逆機能」＝福祉国家＋ケインジニアズムの危機
 - ▶ 政治家「再選可能性」＋有権者「生活水準向上」
＝財政赤字の拡大
 - ▶ 官僚「縄張り・権限争い・予算獲得競争・縦割」
＝行政機構の非効率
- 「新自由主義」的な政治リンケージを準備

脱政治化の過程（2）

- 解決策：公共政策の脱政治化（「政治的ビジネス・サイクル」からの脱却）
- ▶ 政策：完全雇用、社会保障、再分配の分離（1980's）
中央銀行の独立（1990's）
NPMとベンチマーキング化（2000's）
- ▶ 統治機構の変容：「非多数派機関」（G.Majone）
「政府なきガバナンス」（J.Rosenau）
- ▶ 統治原理：「民営化されたケインズ主義」（C.Crouch）
- 党派性と政治の棄却による信任・効率の向上策
- 「新自由主義」が持った普遍性

脱政治化の過程 (3)

	政治的加重負担説	官僚的加重負担・NPM論	合理的期待仮説	グローバル化理論 (開放経済学)
想定	<ul style="list-style-type: none"> ・政府ロビイングを行うセクターの道具主義的合理性 ・有権者の経済的理由による道具主義的合理性 ・利益団体と有権者の利益を優先する政党の道具主義的合理性 	<ul style="list-style-type: none"> ・官僚の道具的合理性 ・官僚による権限と予算に関する情報の独占 	<ul style="list-style-type: none"> ・政治家の道具的合理性 ・政治家の時差的なインフレ選好 ・経済の最適的な運営に関して有権者が有する情報の欠落 	<ul style="list-style-type: none"> ・開放的で完全に統合された世界市場の存在 ・資本の（利益最大化を目指す）道具的合理性 ・資本の（ほぼ）完全な自由移動
診断と処方箋	<ul style="list-style-type: none"> ・政治的加重超過と統治不可能性 ・民主主義の危機 	<ul style="list-style-type: none"> ・官僚的過剰供給と非効率性 	<ul style="list-style-type: none"> ・政治家による金融政策とインフレ期待 ・政治家は物価安定（もしくはデフレ策）を達成できない ・政治的ビジネス・サイクル ・高インフレと失業率の出現 	<ul style="list-style-type: none"> ・競争力の確保 ・高い税負担と経済規制から資本と短期投資家は「逃避」する ・グローバル化時代で社民主義的政策は維持できない
政策的立場	<ul style="list-style-type: none"> ・理論上の新自由主義 	<ul style="list-style-type: none"> ・「新公共経営論」(NPM) ・市場化 ・民営化 ・市場的目標へのインセンティブ強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・制度化されたマネタリズムもしくはネオマネタリズム ・中央銀行の独立 	<ul style="list-style-type: none"> ・資本と短期投資家の選好への順応 ・規制緩和と市場化 ・強制的な新自由主義
政治的帰結	<ul style="list-style-type: none"> ・民主的期待の縮小 ・「ポスト民主制」政治 ・政治的信頼の低下 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ポスト公共サービス・エートス」の高まり ・「パブリックの凋落」(D.Marquand) 	<ul style="list-style-type: none"> ・金融政策の専門化 ・金融政策の脱政治化 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済社会政策の専門化（競争力確保からの要請） ・有権者よりも資本の選好への順応

脱政治化の問題

- 公共政策に対する異議、討議、内省の領域が再定義される。
- 「政治」の存在理由とは：
 - 1) 集合行為によるpublic good(s)の提供/獲得
 - 2) 選択的な行為による対象への働きかけ
 - ▶ 「宿命」に対置される（集団的）自己決定のプロセス
(A.Gamble)
- 脱政治化はプロセスそのものの否定
- 「出力による正当性」は持続可能ではない

「民主主義」の逆襲？（1）

- 「異議申し立て」：ポピュリズムの時代？

- ▶ Populus ~ People ~ Populism

- ▶ ①「エリートの告発」②「サイレント・マジョリティ」③「“ハートランド”の希求」

- ▶ 民主政治における利益媒介構造が揺らぐ際に生起

...但しシステムに大きな負荷がかかる.共同体を分断しての動員手段であるため、必ずしも持続可能ではない.

「民主主義」の逆襲？（2）

- 「討議」：民主主義の「熟議論的転回」？
(J.S.Dryzek)

- ▶ 選好の変容による反省性の埋め込み
- ▶ 「集計民主主義」に対する「プロセス」の重視
- ▶ 意思決定の「手段」と「目的」の等価化

...但し「熟議」そのものは政策的帰結の正しさを担保しない. 場合によっては分極化や「サバルタン」を創出する.

政治リンケージを再考する

- ポピュリズムも参加民主主義も同根
e.g. 「指導者民主主義」 <—> 「ソヴィエト」
「新右翼」 <—> 「緑の党」
「(ネオ)ポピュリズム」 <—> 「オキュパイ運動」
- 民主主義の機能不全に対する応答
 - ▶ 違いは「結束」か「架橋」かのリンケージの違い
 - ▶ 「リンケージ・モード」再構築へと拡張できるか
- 「国家は生活の小さな問題を解決するには大きすぎ、大きな問題を処理するには小さすぎる」 (D.Bell)
 - ▶ 民主主義における「補完性の原理」の模索の必要性

「政治化」の方途

- 政治化の契機
 - ▶ 「自然（である）」から「作為（する）」
 - ▶ 「私的領域」から「公的領域」への転移
 - ▶ 「公的領域」アリーナの複数化
- 「民主主義は消耗し疲弊し自殺する。今まで自殺しなかった民主主義はない」 (J.Adams,1814)
- 「ミュンヒハウゼンのトリレンマ」を超える駆動力を民主政は獲得できるか。
 - ▶ 「内省」としての民主政の潜在力